学生のチャレンジ応援！

審査委員各氏からのメッセージ

総評

◇審査委員長◇
情報通信研究機構理事長
宮原　秀夫

率直に言って前回よりも多少よくなった感じがする。例えばプレゼンテーションをしっかり練習してきている。6分間の中で自分たちの言いたいことをキチッと説明するのは難しいが、私は評価の中でプレゼンを非常に重視した。これから企業化するとき、ほかの人に説明し、わかってもらわないといけない。プレゼン力はいちばん大事な要素といえる。

プレゼンを聞いていて楽しかった。「こんなにおもしろいアイデアが出てくるのか」と。やはり若い人たちの発想は非常に豊かだと感じた。

今回の中からすぐに企業化できるものは極めて少ないと思う。だから私はすぐに企業化できるものを見つけるという観点ではなく〝一つの例題〟として見ていた。つまり次に別のテーマで企業化を考えるとき、ここで培ったプレゼンの仕方、ものの考え方、プロセス（仕事を進める手順）がどれだけ役に立つかという観点で見ていた。

審査では先生方がいろいろな質問をした。その中に学生が気づいていない点がたくさんあったはずだ。企業化を考えるとき参考になる意見もあったに違いない。それらはテーマが変わっても生きてくる考え方だと思う。

全般的には自分たちの周辺の技術なり、周辺の状況をもっと勉強してほしいと思った。自分たちで思いついたらその枠の中でしか考えていない。「あなたが思いつくならほかにも同じように考えてやっている人がいる」と疑いを持って調べないといけない。すでにどこかでやっているものを後追いしても仕方がないのだから。

「周辺にはこういうものがあるが、自分たちはさらにこういう付加価値をつけました」と説明がないとプレゼンを聞いている方も疑心暗鬼になる。周辺の技術、状況を十分に調べ、そのうえで自分のアイデアを構築すること。思いつきだけでベンチャーはできない。

プレゼン力が一番大事
周辺技術もよく知ろう

審査を終えて

テクノロジー部門

経験が大きな財産

創晶
代表取締役社長
安達　宏昭

CVGの審査は書類とプレゼンテーション（面接）の二段階で行われる。企業の採用試験も同じ。いずれも自分の考えや特徴を分かりやすく伝える能力が求められる。

特に面接での質疑応答が重要で、本人の熱意やプランを熟考しているかなどが明らかとなることから学生の視点を大切に堂々と発表してほしい。

受賞したプランは、いずれも提案者の思いが審査員にしっかりと届いた結果だろう。今回の経験が就職活動やその後の社会人生活にプラスに働くと思う。CVGで得る賞金も大きいが、それ以上にCVGで得る経験が人生の大きな財産となることを信じたい。今後もより多くの方にエントリーしていただき、CVGを自らのスキルアップに活用してほしい。

「ひらめき」も大切

富士通関西システムズ
代表取締役社長
白山　健一

厳しい経済状況下、未来に向かい意欲的に取り組む学生の発表を確認し、希望と期待が持てた。

テクノロジー部門では積み重ねた研究成果をもとにしたビジネス提案で、大阪大学の宮﨑さんが優秀賞受賞。従来の技術にちょっとしたひらめきを加え、偶然引き起こした発見をビジネス化提案につなげており、提案力だけでなく具体的かつ緻密（ちみつ）なビジネスモデル展開を進めている点にも感銘した。ほかから見て大したことがなくとも、見方を変えたりひらめきを加えることでビジネスチャンスを切り開くきっかけになることは、日常生活にもたくさんあり、企業がビジネスを考える上でも、こういった視点や切り口は重要だ。今後も学生の皆さんのチャレンジ精神に期待したい。

未知の領域目指せ

メガチップス
取締役執行役員
第1LSI事業部長
古都　哲生

私はテクノロジー部門を担当した。化学、生物、ネットワークなどの各テーマで、現在のテクノロジーの理解を前提に応用や改善に取り組み、より良いものを作ろうとする姿勢に感動した。

ただ、今年は電気・電子、情報などへの応募が少なかったのは残念。来年はこの分野にも多くの応募をお願いしたい。

難易度の高いテーマであればあるほど、審査員の〝突っ込み〟が厳しかったが「是非、成功してほしい」というわれわれの思いがそうさせたのだとご理解いただきたい。

若い時期から誰もやったことのない新しいことを考え、挑戦することは大変大事なこと。今回の経験を生かし、さらなるステップアップと未知の領域へ前進するよう頑張ってほしい。

第12回CVG大阪
関西の学生による新事業提案コンテスト

第12回 キャンパスベンチャーグランプリ大阪 審査委員（敬称略）

審査委員長	宮原　秀夫	情報通信研究機構　理事長
テクノロジー部門審査委員	安達　宏昭	創晶　代表取締役社長（第3回優秀賞受賞）
	前川　洋一郎	高知工科大学大学院　客員教授
	所　喜代春	NPO法人 IT百選アドバイザー・クラブ アドバイザー
	古都　哲生	メガチップス　取締役執行役員　第1LSI事業部長
	白山　健一	富士通関西システムズ　代表取締役社長
ビジネス部門審査委員	萩平　勲	ビジネスインテグレート　代表取締役
	佐藤 友美子	サントリー文化財団　上席研究フェロー
	佐藤　宏	ニュービジネス起業研究所　代表取締役
	白川　泰憲	ネクストステージ・ビジネス・コンサルタンツ 中小企業診断士
	上野　祐子	テクノマーケ　代表取締役
	清水　利男	大阪経営イノベーションオフィス　代表
特別委員	玉野　直毅	近畿経済産業局　産業部　創業・経営支援課　課長
アドバイザー	中井　信宏	中井国際特許事務所　所長　弁理士

ビジネス部門

広告収入では安直

高知工科大学大学院
客員教授
前川　洋一郎

今年は理系や文系の双方から内容の濃い提案が多く、審査に疲れたが、うれしい悲鳴だった。

特に何でも携帯やパソコンを利用する、かつてITブーム時に多かったアイデアに代わり、実社会の生活に密着したプランが増えた。さらにSNSやツイッターと実際の商売との連携も登場し、いい傾向となった。

ただ、プレゼン技術に少し物足りなさが目立った。特に背景趣旨の説明におぼれ、審査委員のニーズに応えられないものが散見した。なぜもうけられるのか、どうお金が回るのか、本当にお客は財布の口を緩めるか、などビジネスプランの詰めが甘い。安直に企業広告に頼るのもどうか？世の中はそう甘くない。広告に代わる手法を生み出すベンチャーを待望する。

若いパワー感じた

NPO法人IT百選
アドバイザー・クラブ
アドバイザー
所　喜代春

最終審査当日は若い人の積極的なパワーが感じられ、世間の閉塞（へいそく）感が身にしみる日常から開放されたいい一日だった。内容的には日ごろ感じる問題点を各自の価値観に基づき、解決策を検討し、ビジネスに展開しようとしたものが多く、好感が持てた。

プレゼンテーションでの話し方は、どの発表者も堂々としていてすばらしかった。しかし、事前に批判的な意見を持つ人とのディスカッションが不足しているせいか、ストーリーが単調になるケースが目立った。

最優秀賞に選ばれた二つのプランは、ともに大学での活動を通じて学んだことをベースとし、非常にシンプルにまとめあげられているところがキャンパスベンチャーらしくすばらしかった。

販売計画に配慮を

ニュービジネス起業研究所
代表取締役
佐藤　宏

CVG大阪は第12回目を迎え、22大学・専門学校から234件もの応募があった。

今年度の特徴は少数精鋭で直ちに企業化に結びつきそうな具体的な良い提案が多く集まったことである。

テクノロジー部門最優秀賞を受賞した大阪大学・宮﨑祐満君の「創薬のためのゲル界面における新規タンパク質結晶化技術」は、タンパク質の新しい結晶化法で、すぐ創薬に使える有用な新技術。

一方、ビジネス部門最優秀賞の関西学院大学・竹内友章君の「起業を通した地域活性」は、三重県の中山間地に自生するクレソンを活用した限界集落の再生計画で面白い。

提案書全般に言えることは、ビジネスプランなので事業採算性、特に販売計画にもっと精緻（せいち）な配慮が必要と思われる。

日本再生の一助に

大阪経営イノベーションオフィス
代表　**清水　利男**

第一回から審査に携わる私にとって、最近の起業を望む声の多さに驚く反面、喜びも感じている。バブル崩壊後は、日本の産業構造も大きく変化し、大企業でも明日は倒産か、買収かなどと、この先何が起こるか分からない時代となった。戦後、日本は荒廃から立ち上がり今日の繁栄を築いたのは、起業家が数多く輩出できたことと貧乏であるがゆえ、みんなが努力と工夫したおかげだ。

この困難な時代は悪くなることはあっても良くなることは考えられないこと。こんな厳しい時代だからこそ、夢と希望を持ち、自分の能力を信じ、努力と工夫で困難に立ち向かい起業してほしい。

実用近い提案多数

ビジネスインテグレート
代表取締役
萩平　勲

昨年に続き、本年も実践活動に移されているテーマや科学的最新技術を応用した実用可能なテーマが多く見られた。思いつきやアイデア段階にとどまらず、事業化段階の近くにきているテーマが多く、このCVGに正面から取り組む気風が強くなっていると言える。

アイデアを思いついたらその実現方法を考え、そこで留まらず、実際に試作をしたり、現場へ行ったりしてみることが必要だと思う。そうすれば問題点や課題が見え、プランが深められる。このようなステップを踏むにはグループワークが向いていると言える。

今回も、グループとしての提案が多かった。ただ、グループワークは考えが散漫にならないように、しっかり筋道を立てて議論する必要がある。

斬新で創造性高い

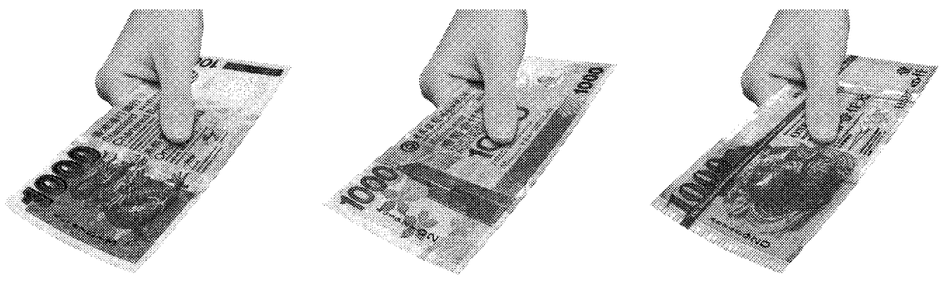
ネクストステージ・ビジネス・コンサルタンツ
中小企業診断士
白川　泰憲

本審査に選ばれたビジネスプランは234件の中からの選抜であり、非常に素晴らしいものばかりだった。荒削りな所も見かけられたが、それを補って余りあるほど、斬新で創造性に富んだプランばかりだった。

ただ、昨今のインターネットの普及により、調査、分析資料が非常に手に入りやすくなった。そのため、資料の検証不足、学生自身が実際に企業へ足を運ぶこと、顧客へのアンケートの実施などがおろそかになっていたのは残念だった。

しかし、CVGの応募のために、調査、収支予測、プレゼン準備など、学校の授業とは異質な実務的な学習を多く経験したと思う。この経験は今の生活を充実させるだけでなく、社会に出ても必ず役に立つ。是非、今後に生かしてほしい。

香港の1000ドル紙幣は3種類。

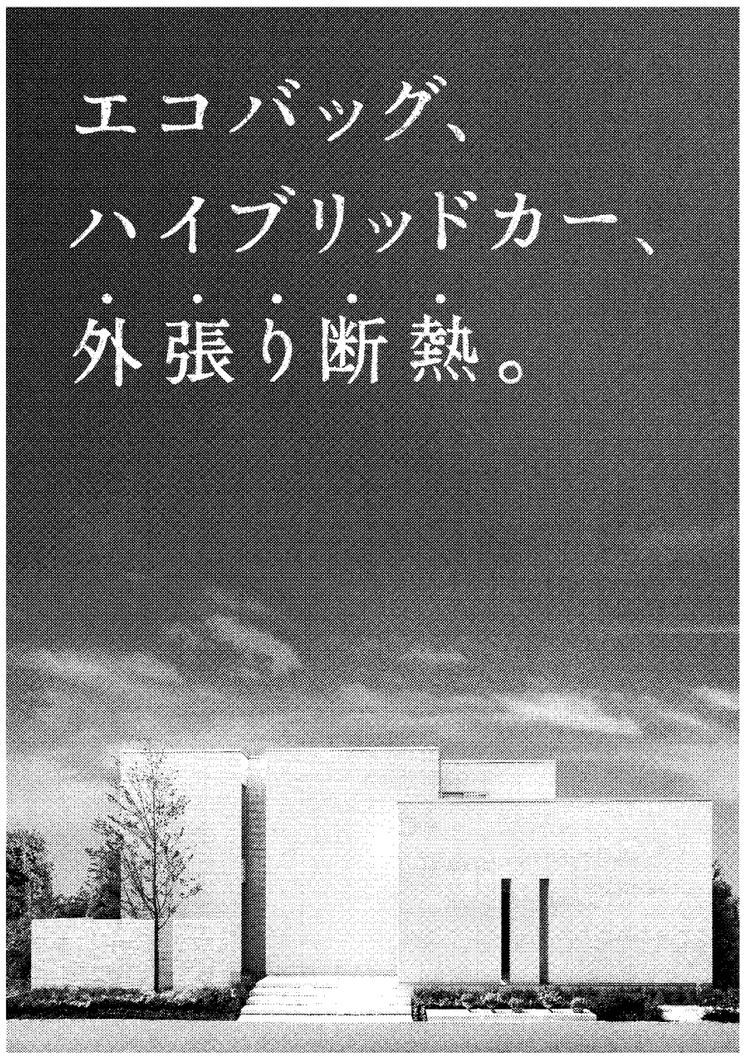


香港では、大手3銀行がそれぞれ紙幣を発行しています。合計で15種類もの紙幣が流通しているので、処理作業に膨大な時間と手間が掛かっていました。そこで、グローリーの紙幣入金整理機。紙幣処理業務を自動化し、スピードアップや正確さの向上に貢献しています。世界80カ国以上で活躍するグローリーの通貨処理機。「人は人らしく」を技術で支える、私たちはグローリーです。

紙幣入金整理機 UW-600

GLORY
We Secure the Future
思いをかなえる 技術で見つめる 確かな未来

グローリー株式会社
本　社 〒670-8567 兵庫県姫路市下手野 1-3-1　TEL (079) 297-3131 (代表)
東京本部 〒101-8977 東京都千代田区外神田 4-14-1 TEL (03) 5207-3100 (代表)
www.glory.co.jp



Daiwa House®

暮らしのあらゆるものが
「それは地球に優しいか」を問われる今、
私たちは家にできることを
とことん考えました。
ジーヴォは「外張り断熱」効果で
冷暖房費を節約できることをはじめ、
さまざまな性能でエコの家を実現。
普通の家※1に比べ、1年間に約0.62t※2
ものCO_2排出を減らすことができます。
これはブナの木約60本分※3が吸収する
CO_2の量と同じ。住む人だけでなく
地球にも優しいこと。
そんな視点から選べば、
答えは「外張り断熱の家」になるのです。

外張り断熱の家。ジーヴォ by ダイワハウス
xevo

※1 新省エネルギー基準適合の住宅（Q値＝4.2W/m²K） ※2 xevo（Q値＝2.1W/m²K）の場合。［試算条件］当社モデルプランにおける試算値。当社独自のシミュレーション結果をもとに算出。［建設地］大阪府［ご家族］4名［給湯］ガス湯沸器［調理］ガスレンジ［空調］電気エアコン ※3 ブナの木1本、1年あたりのCO_2吸収量は11kg（独立行政法人森林総合研究所試算）

大和ハウス工業株式会社 www.daiwahouse.co.jp 〒530-8241大阪市北区梅田3丁目3番5号 建設業許可番号・国土交通大臣許可（特-22）第5279号 宅地建物取引業者免許番号・国土交通大臣（13）第245号